



# 7月・8月のほけんだより

令和2年7月1日発行  
戸塚愛児園

日に日に日ざしが強くなり、汗ばむ夏がやってきました。  
元気そうに見えても、体は意外と疲れています。体調がすぐれない場合など、無理せずにおうちではゆったりと過ごせるようにご配慮ください。



## ヘルパンギーナ

原因：コクサッキーウイルスA群などに飛沫感染することで発症。

症状：高熱、のどの痛みが特徴。のどに水ぼうそうや潰瘍ができて痛みがひどく、乳児の場合はミルクが飲めなくなるほどになります。

対応：のどの痛みは、熱が下がってからも続くことがある。熱やのどの痛みがあるうちは安静に過ごすようにして下さい。

## 気をつけよう夏の感染症



## 流行性角結膜炎

原因：目とまぶたの裏側を覆っている結膜にアデノウイルスが感染して起きる炎症。ウイルス性の結膜炎の中でもっとも感染力が強く、プールの水だけではなく、タオルの共有や手指の接触によっても感染する。最近は季節に関係なく発症する傾向がある。

症状：まぶたのはれや異物感、痛み、充血。目やにで目が開けられなくなったり、発熱や下痢を伴うこともあります。

対応：完治まで2～3週間かかり、登園時には、登園許可証明書が必要になります。

## 咽頭結膜熱(プール熱)

原因：アデノウイルスによる飛沫感染です。目やにや便からうつることもあります。プールの水を介して感染することもあるので「プール熱」と呼ばれます。

症状：39℃以上の発熱と、のどの痛みがあり、目のかゆみ、痛み、充血、涙など結膜炎のような症状が出るのが特徴です。

対応：感染したら症状がなくなってから2日経過するまでは登園停止。登園時には、登園許可証明書が必要になります。

## 手足口病



原因：コクサッキーウイルスやエンテロウイルスによる飛沫感染です。

症状：手のひらや足の裏、口の中に小さな水ぼうそうや赤い発しんができ、熱が出ることも。

対応：3～5日で治る。発熱や口腔内の水ぼうそうの影響がなく、普段の食事がとれれば登園できますが、まれに髄膜炎などの合併症を起こすことがあるので、頭痛やおう吐を伴う発熱が3日以上続くときは、すぐに受診しましょう。